

議長 それでは本会議を再開を致します。 (午前10時40分)  
続いて、片岡議員の一般質問を行います。4番片岡議員。

4番 片岡議員 本日、最後の質問者、片岡でございます。今年、4月川本町議会選挙を共に戦いました瀬上康浩議員の姿は今はありません。川本の為にと言う思いの強かった方だけに、さぞかし無念であったらうと推測する次第でございます。私は茶目っ気があって、いつまでもやんちゃ坊主の瀬上さんが大好きでありました。心よりご冥福をお祈りを致しまして質問に移ります。

通告書に従いまして2点の質問をさせていただきます。

1点目は「第5次総合計画の具現化について問う」ものであります。町長の行政報告によりますと、平成25年度の予算編成は一般財源を2%削減を前提としたマイナスシーリング編成として、この圧縮額を「医療福祉の充実」、「雇用の場の確保」、「居住空間の整備」、「子供教育の充実」に重点的に充てるとありますが、現状で具体的な形が見えているものがあれば説明をお願いを致します。又、予算規模にしますと、どれくらいの規模になるのか、その事をご回答をお願い致します。

2点目の質問は「温湯城ぬくゆじょうの歴史的価値と観光資源としての可能性を問う」ものであります。去る10月7日、川本町商工会地域振興委員会の皆さんが川本町を元気にする為には、もう一度、地域資源を見直して町の活性化に貢献する為に対策・研究してみるべきとの思いから温湯城ぬくゆじょうを探索されました。その様子が山陰中央新報に紹介をされました。1350年、小笠原氏によって築城された温湯城ぬくゆじょうは、それから200年、毛利軍の猛攻を受けて開城するまで小笠原氏の地勢の元に川本周辺を領有し銅ヶ丸どうがまる鉾山、石見銀山の経営にも深く関わって参りました。簡単ではありますがそういった歴史的背景と川本町を活性化したいという思いを胸に商工会の皆さんは温湯城跡ぬくゆじょうを探索された訳であります。頂上からは畑野の赤城(あかじょう)、「せきじょう」と呼ぶものと思っておりましたが、ふりがなでは「あかじょう」とありました。仙岩寺の上の「青岩城せいがんじょう」が木立の間から眺望されたそうであります。3つの城跡がトライアングルのように存在し、それぞれの役割を果たしていたようであります。今後、観光資源とするには眺望整備、登山道の整備、案内板等の整備が必要と思われれます。町としてのバックアップ体制は考えられないか、お尋ねを致します。以上の質問についてお答えをいただきたいと思えます。

議長 片岡議員の質問のうち1項目めの「第5次総合計画の具現化について問う」に対する、答弁をお願い致します。番外三宅町長。

番外 三宅町長 片岡議員からご質問がございました「第5次総合計画の具現化の方向について」お答え致します。「つながりとぬくもりの中で豊かに暮らせるまち」、

番外  
三宅町長

これを本町の将来像と掲げ、先に策定致しました第5次総合計画につきましては、重点4分野を中心に、その実現が待ったなしの段階にあることは、まさに議員ご指摘のとおりでございます。最初に、現時点で具体的な姿でございますが、これにつきましては先ほどの石川議員の質問に対する答弁の中で触れさせていただいた通りであります。

次に、予算規模をどのように想定しているか、というお尋ねでございます。現段階では、既存事業の実施に必要な一般財源を縮減して捻出する約2千万円を、ソフト事業を中心に充当していくことを想定しております。又、ご承知のとおり、国に大きく依存しております地方交付税の配分規模を反映した、平成25年度の地方財政計画が示される時期が、越年確実との観測であることもあり、これらを踏まえた全体の予算規模の絞り込みは、現時点では出来かねている状況にある、ということをご理解いただきたいと思います。

そしてこの事業の選択と集中の取り組みでございます。先に、国から今年度の補正予算によります緊急経済対策が発表され、これに呼応して、町内でも施設を営んでいる社会福祉法人より障害者グループホーム・ケアホームの整備計画を前倒し実施したい、という意向が示されました。町としては、総合計画及び個別計画のいずれにおいても、平成25年度に支援するものと掲げておりましたが、その必要性及び緊急性に鑑み、町有地の中から適地を提供するとともに、外構工事等に必要な予算について、このたびの12月補正予算案に盛り込み、全面的に支援する方向と致しました。お互いに認め合い、助け合う共生社会の確立をはじめとして、今後も必要な取り組みにつきましては、機を逃すことなく判断し、スピード感をもって支援して参ります。

又、本町の中核病院であります加藤病院を運営されている仁寿会が、昨年8月に、県から社会医療法人の認可を受けられました。これは、国による医療改革により、新たな社会医療法人という制度が設けられたことに伴い、山陰地区では初めてとなる「僻地医療」を柱として認可を受けられたものであります。併せて、社会医療法人による取り組みが、新たに特別交付税充当の対象となるよう制度が拡充されたことから、本町に必要な不可欠な、地域医療の充実に向けた取り組み等を支援するために、庁内の関係課の担当職員で構成するワーキンググループを立ち上げ、現在、その支援方策を検討しており、その内容を当初予算案に盛り込んでいくこととしております。今後も横断的かつ総合的な検討が必要な取り組みにつきましては、こうした適宜このような手法も導入しながら、必要な事業の選択と集中を徹底していきたいというふうに考えております。

議 長

ただいまの答弁に対しまして、再質問はございますか。4番片岡議員。

4番  
片岡議員

非常にタイムリーな時点で邑智園を運営されている方からグループホームの建設が出て参りました。これは自分の懐の痛まない非常にラッキーと言えますか非常に良かったと思いますけれども、町長が就任された時の抱負とし

4 番  
片岡議員 　　て選択と集中を徹底して行財政改革を維持しながら、高齢者福祉対策の充実、商店街の活性化、計画的に公共事業を進める、6次産業のバックアップ等、このような事を各新聞紙上で申されております。今回への第5次総合計画への具体的な反映について、石川議員との重複する部分もありますし又、今までの答弁の中の重複部分もあると思いますが、最初の抱負と今の要するに現状とを乖離かいりと言いますか、そういった点はないか、そういったところの答弁をお願い致します。

議　長 　　番外三宅町長。

番外  
三宅町長 　　目指すところは第5次総合計画で言ってる内容と、私が目指していこうという選挙公約で申した内容、目指すところは一致しております。ただその目指す過程においてはいろんな手法がこれからあるかと思えます。これにつきましては多くの方々の意見を頂戴する中で、最も効果の有る方法で、これから進んでいきたいというふうに考えております。

議　長 　　再質問ございますか。4番片岡議員。

4 番  
片岡議員 　　今回の町長行政報告の中にもありますように、23年度の決算では実質公債費比率が18.3%に改善されております。私が議員になった当初に比べまして、ほぼ半減しております。しかしながら経常収支比率が94.6%と危険ライン90%を上回っており、身動きの取りにくい状態になっております。実際に町長になってみて、自分の今までの思いと、実際に町の財政状態を見た時に実行に移す事の困難さ、そういった事に対する所感があればちょっと述べてみて下さい。

議　長 　　番外三宅町長。

番外  
三宅町長 　　町長になる前からこの川本町の財政の厳しい事は重々承知した上で、私はこの度立候補致しました。従ってその内容を町長になってみてビックリした事、そういう感覚は持っておりません。これからも厳しい中で町の運営をやっていくしかございませんので、この財務の確立というところも片方におきながら町行政を進めていきたいというふうに考えております。

議　長 　　再質問ありますか。4番片岡議員。

4 番  
片岡議員 　　非常に厳しい事を実感されてなって居られる訳ですが、実際に例えばその抱負の中で高齢者福祉の充実を図ろうと思えば、そういった施設を作ったりとかそういう事が実際になかなか可能にならない、という事にお気づきになったと思います。この大田圏域での医療計画というのがありまして、いろい

4 番  
片岡議員 　　ろな病院は何床、或いは福祉施設は何床、そういったいろいろな縛りがござ  
います。その中で町長の思いというのは実現していくのでありましようか、  
そういった事についてちょっと回答をお願いします。

議　長 　　番外三宅町長。

番外  
三宅町長 　　私が町長に立候補するにあたりまして、特に高齢者の事を言っておりました。  
そうした中で町を歩く中でこの特別養護老人ホーム、これをここに入所  
するのに待っているという方が可成り有るという事も聞いていた訳ござい  
ます。そうした中で町長に当選した暁には、こうした施設の充実を図ってい  
くという事も訴えてきた訳でございますが、この邑智郡で運営しております  
老健関係の中で既に3町につきましては、こういう施設を当面設けないとい  
う事がルール化されているという事は、後で伺った事でございます。これは  
これとしてルールでございますのでそれに従って進めていかなければなりま  
せんが、そうした中でもやはりこの現状を見ながら少なくとも川本町はこう  
いう方向で進んで行くんだというような気持ちと言いましようか姿勢とい  
うものは自分なりにそうした場でも今後、示していきたいというふうに考  
えております。

議　長 　　再質問はありますか。4番片岡議員。

4 番  
片岡議員 　　そうした意気込みを持って、今後、町運営に遅滞なく進んでいただければ  
と思います。

　　次の質問も、ちょっと前回の定例会の時の石川議員の質問と重複するん  
ですが、未だ町民の方に6次産業について分からないという方がよく居られ  
ます。私にしてもそうでございますが、6次産業というのは如何なものか。  
これから町としてどういった方向で何をバックアップしていくのか、そう  
いった事をちょっと分かり易くテレビを意識しながら、皆さんに分かり易く  
説明をしていただければと思います。

議　長 　　番外三宅町長。

番外  
三宅町長 　　冒頭の質問の中で、片岡議員の方から、この6次産業について、ご質問が  
ございましたが、この6次産業化の取り組みにつきましては、この川  
本町の産業活性化の1つの柱というふうに私なりに位置づけております。  
そうした中で、今年度は、農・商・工が一つのテーブルについて、先ずは、  
検討委員会を立ち上げようという事でスタートしております。その第一歩  
として、この9月には、実際に農産品の生産を行い、加工・販売をしている  
企業の方、そしてインターネット販売も含め特産品の販売をしている道の  
駅の担当の方等を交えまして、意見交換会を開催したところでございます。  
その中

番外  
三宅町長

でそれぞれの組織での課題や、今後の展開・要望など意見交換を重ねる中で、新商品やコラボ商品の開発にも繋がっていくというような感じを取ったものであります。又、この検討委員会を通じまして情報の共有化をしっかりと行いまして、そうした中で全国的なイベントに町内企業が参加でき、職員も同行させて消費者ニーズを把握するなど、この連携を進めているところでございます。今後は、更に、この検討委員会の構成員を拡大する中で、町全体での6次産業化というものを考えていきたいというふうに思っております。6次産業の根底は第1次産業、農業がしっかりしているという事が前提になります。これをベースにしなが、川本町の6次産業というものを、みんなで知恵を出していただきたいというふうに考えております。それから、次のステップと致しましては、郡内の6次産業化の推進に向けて走り出していきたいというふうに考えております。これにつきましては、悠邑アグリビジネスネットワークとの連携を図っていきたく、こういう中で研修会等も進めていきたいというふうに考えております。今後も、そうした事で一步一步取り組んで参りますが、こうした取り組みを踏まえまして、平成25年度からは、本格的に6次産業化の具体化を進めていきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。4番片岡議員。

4番  
片岡議員

6次産業そのものについての説明がちょっと無かったんですが、ちょっと私なりに理解したところで言わせていただくと、要するに生産から販売までを一貫して行う、これは言うなれば農協を通さずに農作物やらその加工産物を売るという事ですか。

議 長

番外三宅町長。

番外  
三宅町長

いろんなやり方があろうかと思いますが、とにかく生産した物に付加価値をして、それからマーケティングもしっかりして選任して売っていこうというのが6次産業化であります。私はその6次産業化の中で川本町も併せて商品と一緒に売っていこうという思いで、この6次産業化を進めていきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。4番片岡議員。

4番  
片岡議員

そうしますと新たな販売ルートが出来たりすると、町長の出身母体であります農協の方から苦情が出ませんか。

議 長

番外三宅町長。

番外  
三宅町長 販売形態はですね、いろんな形態がありまして、今いちばん農家にとって安定した農業経営をするには、こう言われております。市場出荷が3割、契約出荷が3割、それから直売所が3割、それから1割が施策、こういう割合でこの専業農家ですね、経営するのが一番経営が安定するという中であります。従ってJAにも或る程度出荷してもらおう、又この契約栽培というふうの中にもルートを持つと。それから直売所にも入れていくというような販売ルートをたくさん設ける中で、6次産業化の販路を拡大していきたいというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。4番片岡議員。

4番  
片岡議員 農協外しの事を6次産業というのかなと思っておりましたが、それは違うという事ですね。

議 長 番外三宅町長。

番外  
三宅町長 農協主体の6次産業化というのも可成りのところで今、進められております。むしろこういう付加価値を付けて、販売していこうと言うこともJAとしては、どちらかというに進めているという事であります。

議 長 再質問ありますか。4番片岡議員。

4番  
片岡議員 現在、エゴマ等につきましましてはいろいろなチャンネルで販売されております。是非とも川本町の農業及び商工業を交えながら、この6次産業が発展する為に町として万全のバックアップを取っていただくようお願いを致しまして、この質問を終わりたいと思います。

議 長 以上で、1項目めの「第5次総合計画の具現化について問う」の質問を終了致します。

々 2項目めの「<sup>ぬくゆじょう</sup>温湯城の歴史的価値と観光資源としての可能性を問う」に対する答弁をお願い致します。番外三宅町長。

番外  
三宅町長 片岡議員のご質問にお答え致します。先ず「<sup>ぬくゆじょう</sup>温湯城の歴史的価値」についてでございますが、歴史的な価値を問う場合には、時間という流れの中で価値判断をする場合の視点と切り口、又、誰によって、どうやってその判断がなされたのか、によるところが大であり、他との差がどこにあるのか、と考えております。<sup>ぬくゆじょう</sup>温湯城に関して身近に現存する資料としては、川本町誌・邑智郡誌・<sup>ぬくゆじょう</sup>続邑智郡誌等がございます。<sup>ぬくゆじょう</sup>温湯城については、南北朝の動乱期、西暦1340年頃に建築され、西暦1560年頃まで小笠原氏の居城として

番外  
三宅町長

あったのではないかと、との記載がございます。川本町誌の一部を引用しますと、「南北朝の早い時期に、温湯城を川本の谷頭に構築したのは、小笠原氏の従来の本拠村之郷を中心とする旧布施村地域と、新たに領地に組み入れた三原郷の中間地点として、領内政治の中心として、併せて江川水運による交通の要衝として選ばれたものであろう。」との記載、更には、「銅ヶ丸鉾山の経営にとっても至便な土地でもあった。後年、小笠原氏が大森銀山と深い関係を持つようになるのも、この鉾山の経営の経験が大きくものを言っていると思われる。」と記されています。歴史研究の専門家ではございませんが、この時代は、領地を求めて群雄割拠の時代が続いており、温湯城と同様な山城が幾多も構築されたであろうと容易に推測できます。以上のような中で、一般的に社会全体から認められる、客観的な視点での歴史的価値をどこに見つけるのか、が課題であると考えます。他の山城との特異な差や、歴史の流れの中での大きな役割等、自他共に認められることが、一つの歴史的な価値の意味だと考えております。しかしながら、客観的な価値観とは別に、ふるさとの歴史を知り、その時間の流れの中に暮らす我々にとって、これらの資源を積極的に活用することは望ましいことであると考えます。

次に、観光資源としての可能性についてであります。

本町にとって、貴重な資源であるこの史跡を、今後、特に町外の方に真の観光資源として認知していただくためには、ハード面においては、丸山城跡を対象に実施しましたような発掘調査を行うなど、一定の時間と経費をかけた整備が必要になるものと見込んでおります。又、今回の動きは、商工会の地域振興委員会の発案による取り組みであります。ソフト面におきましても、この貴重な資源の価値を地域全体で認識するための勉強会や、小笠原氏や関連する史跡との関係を分かり易くストーリー化してPRしていくための検討会等を重ねていくことが不可欠であると考えております。将来、真の観光資源たるよう温湯城のポテンシャルを総合的に高めていく方策について、今後、商工会や観光協会など関係団体、機関と検討して参りたいと考えております。

議長

ただいまの答弁対しまして再質問ありますか。4番片岡議員。

4番  
片岡議員

今回、この企画をされたのが川本町商工会地域振興委員会の方々です。このやっぱり現在、全国各地で旧商店街がシャッター街化しております。川本町でも例外ではありません。嘗て栄華を極めた町並みも、今は歯抜けのような状態になっております。それを何とかしたいという熱い思いが今回の行動になったんじゃないかなと考えております。それでこういった今現在、中高年の登山ブーム、或いは歴城ブーム、山城ブーム、こういったいろいろな山、或いは歴史に関してのブームがあります。こういった事にやっぱり乗っかって川本町の要するに町内の振興、「山を歩くばかりじゃないよ、その為には町の中も歩いて下さいね」というような思いがあったらと思います。こ

4 番  
片岡議員

<sup>ぬくゆじょう</sup>の温湯城、<sup>あかじょう</sup>赤城、<sup>せいがんじょう</sup>青岩城、この3つをトライアングルとした観光ルートを構築する事によって、そういった人達を取り込めるんじゃないかと、そういった思いからだと思います。是非とも、川本町におきましても、先ほど多分小さな事から始まるんだと思います。登山道の整備、或いは観光板の設置、或いは頂上からの景観を良くする為に木立を切って景観を良くするとか、そういった事から始まるんだと思います。是非とも、川本町としても、商工会地域振興委員会の皆さんと共に、何とかバックアップをしていただけるようお願いを申し上げたいと思います。如何でしょうか。

議 長

番外三宅町長。

番外  
三宅町長

この町の活性化という視点で、これからそうした商工会等と連携しながら進めて参る訳でございます。そうした中でこの<sup>ぬくゆじょう</sup>温湯城につきましても、これをどう進めるかというところを最後に申し上げましたが、これから十分に検討していきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ございますか。4 番片岡議員。

4 番  
片岡議員

関連としまして、先ほど高良議員の方から子供さんの公園の話が出て参りました。私はちょっと大人の立場から<sup>こんびらやま</sup>金比羅山児童公園と<sup>まるやまじょう</sup>丸山城の事についてちょっと話をさせていただきたいと思います。ただいま<sup>こんびらやま</sup>金比羅山児童公園の現状が電気が点かない、或いは便所が汚い、或いは何でしたかね、もう1個ありましたね。そういった状況になっておりまして、非常に公園としての整備がなっていない。そして夜間においては治安において非常に危険な事が予想される、こういった状況の中で<sup>こんびらやま</sup>金比羅山公園は新聞とかインターネットとか桜の開花状況等にも出てきます。それはやっぱり放置しておくという事は非常に残念な事だと思います。昔は「ぼんぼり」と言いますか、それが有って非常に綺麗な夜桜見物なども出来た訳ですが、商工会においてLEDを使った照明などの試算で少しされているそうです。やはりそういった事もやっぱり地域振興策として町としてもバックアップ体制、委員会の設置なども考えていただいて考慮していただけたらと思います。

それから先ほど町長の話の中にもありましたが、<sup>まるやまじょう</sup>丸山城の事であります。現在、施錠がされていて車が上に上がれない状態になっております。閉園の<sup>まるやまじょう</sup>丸山城の関係上、そこには上がれないという事だと思うのですが、今、<sup>まるやまじょう</sup>丸山城において雲海の名所として、そのマニアの間では結構有名になっているそうです。そうするとその雲海を撮影したりするのに機材を運ぶのに車が上がれないと非常に大変だと。その施錠をされたというのは、結局、事故が遭ったら困りますよと言う事でされたんだと思うのですが、注意書き等で対応するとして、その施錠を解錠する事は出来ないものでしょうか。そこの辺、<sup>こんびらやま</sup>金比羅山公園と丸山公園について、ちょっとお尋ねを致します。



議 長

番外長田地域整備課長。

番外長田地  
域整備課長

片岡議員からご質問のありました、<sup>こんびらやま</sup>金比羅山児童公園の現状と整備の必要性について、というご質問についてお答えしたいと思います。

先ず私の方から、現状についてご説明をさせていただきます。

<sup>こんびらやま</sup>金比羅山児童公園は、町民の福祉の増進、それから児童の健全な遊戯の場を提供するために、昭和45年6月に都市計画事業の認可を受けて、その後、施設の整備を行いまして、昭和46年4月1日に開園致しました都市公園、面積が0.47ヘクタールございます。開設以来、町民の皆様の憩いの場として親しまれて参りました、桜の開花時期には花見に訪れる方もありますが、財政難に伴う経費節減から、電気、それから水道も止まっており、トイレも使用出来ない状態となっております。又、山頂部分には雑木や竹が茂りまして、ちょっと見晴らしが悪いというような状況に現在なっております。

こうした状況の中で、毎年、公園の管理と致しまして<sup>のりめん</sup>法面、それから頂上部分、道路の草刈り、倒れる恐れのある樹木の伐採、遊具の点検等を行うと共に、桜の開花前には周辺自治会の皆様方にご協力をいただきまして、園内の一斉清掃を実施している状況でございます。又、平成22年度から平成23年度にかけて、公園の安全対策としまして、公園へ通じる町道<sup>こんびら</sup>金比羅公園線のガードパイプ、それから頂上部分のネットフェンスの補修、道路側溝の整備等、現在、必要最小限の維持管理を行っているのが現状でございます。

議 長

番外森川産業振興課長。

番外森川産  
業振興課長

私の方からは<sup>こんびらやま</sup>金比羅山児童公園の整備について、議員さんの方からご質問のございました事につきましてご答弁させていただきます。議員のご指摘のとおり<sup>こんびらやま</sup>金比羅山公園につきましては近年、桜の時期になりますと花見の名所を紹介している情報誌や情報サイトを運営している会社から数件の問い合わせがございます。例えば山陰の情報を掲載している「L a z u d a (ラズダ)」というタウン誌や「株式会社 鉄道情報システム」、「全国地域観光情報センターの全国旅相談のサイト」等に桜の名所として<sup>こんびらやま</sup>金比羅山児童公園の紹介や開花情報が掲載をされております。このような情報に依りまして件数は多くはございませんが、個人客を中心に町外からのお客様もお越し頂いている現状でございます。こちら町の方で把握しているところでは、今年の4月にも20名ぐらいの団体が<sup>こんびらやま</sup>金比羅山公園を訪れていただいているというふうにお聞きしております。又、来年4月には旅行会社が三江線沿いの桜観賞列車の計画も有るようでございます。このように旅行商品として売り出すには、やはりトイレの整備というのは必須でございます。この<sup>こんびらやま</sup>金比羅山児童公園の整備につきましては出来れば常設のトイレを整備する事が一番ではございますが、先ほども現状の中でお話しをさせていただきましたように、財政難の中で今休止しているところもございまして、現段階ではお客様に一番お越し

番外森川産業振興課長 いただきたい花見の時期に期間を決めさせていただいて仮設トイレ等の整備が必要であろうというふうに思っております。又、議員の方からもお話しがございましたように商工会からも平成22年まで地元企業の有志の方により設置のされていた「ぼんぼり」の復活の要望もお聞きしております。これらも含めまして商工会、観光協会など関係団体と協議をして検討して参りたいというふうに思っております。又、併せまして展望台からの眺めが雑木等によって悪くなっておりますので、それも伐採が出来ないかという事も併せて検討して参りたいと思っております。

それと「丸山のわんぱくの森公園」の件でございますが、これにつきましてはご指摘のとおり今十分に町の方で管理が出来ていないところもございまして、事故が遭っては困るところで今のところ現段階では休園という形で施錠をさせていただいております。これにつきましては、お話しがありましたような要望等有るという事であれば今後検討もしていきたいと思っておりますが、現段階では休園という事で施錠をさせていただいているという事でございます。

議 長 再質問ございますか。4番片岡議員。

4番片岡議員 丸山城の閉場についてですが、結局、事故が起これば大変だという考え方が前提にあると思うのですが、これはやはり立て看板等で「ここから先は閉園しております。これから先の事故については当町の責任ではありません。」というふうな立て看板では対応出来ませんか。

議 長 番外森川産業振興課長。

番外森川産業振興課長 ご指摘の立て看板という事でございますが、やはり管理者は町でございしますので、そこで何か事故が遭った場合には町が責任を問われると思います。その辺は十分に考慮して掛からなければならないというふうに認識をしております。

議 長 再質問ありますか。4番片岡議員。

4番片岡議員 慎重な発言であれですが、一応、私の意見としましては温湯城、赤城、<sup>ぬくゆじょう</sup> <sup>あかじょう</sup> 青岩城、丸山城、金比羅山公園、こういった事を一体に整備する事によって、その歴史的価値とその観光資源としてのリンク、そういった事を前提に川本町を活性化させていこうと、そういう思いが商工会の皆様には有るようでございます。是非ともそういった思いを無駄にしないように川本町として出来る事があればバックアップしていただきたい、そして話し合うことがあれば話し合いの場に応じていただきたい、その事をお願いを致しまして質問を終わります。

議 長           |    これをもちまして、片岡議員の一般質問を終了致します。

                  |    

                  |    以上をもちまして、本日の議事日程はすべて終了いたしました。

                  |    

                  |    本日は、これをもちまして散会といたします。

                  |    ご苦労様でございました。

(午前11時23分)

この会議録は、川本町議会事務局長 鉦 英俊 が記載したもので、その内容において、正確である旨を証するためここに署名をする。

川本町議会議長

川本町議会議員

川本町議会議員